

地域人材ネット

大崎耕土世界農業遺産地域におけるSDGsツーリズム開 発

大和田順子

(おおわだじゅんこ)

(2021年4月から) 同志社大学 総合政策科学研究科 ソーシャル・イノ
ベーションコース 教授



○ 登録者情報

所在地

京都府京都市

略歴

百貨店、シンクタンク、英国化粧品ブランド、環境コンサルティング会社等で20数年マーケティングの実務を経て独立。2002年、日本にLOHAS(ロハス)を紹介。全国各地で「世界農業遺産」や有機農業を活かした関係人口の創出や持続可能な地域づくりを支援。

東日本大震災復興活動として、福島県いわき市を中心に今日まで継続されている「ふくしまオーガニックコットンプロジェクト」を事業構想段階から支援。同プロジェクトは環境省のグッドライフアワード等を受賞。また、宮城県大崎市では「蕪栗沼ふゆみずたんぼプロジェクト」を支援、同プロジェクトは計画行政学会計画賞にて最優秀賞を受賞。

近年は、世界農業遺産認定地域「高千穂郷・椎葉山地域」日之影町の地域活性化支援(2017～19年)、五ヶ瀬町の関係人口創出モデル事業(2019～20年)アドバイザー。宮城県大崎市に大崎耕土世界農業遺産ツーリズムのプログラム開発(2018～20年)に関わった。

科学技術振興機構社会技術開発センター「持続可能な多世代共創社会のデザイン」領域アドバイザー(2014年4月～2020年3月)。農林水産省 世界農業遺産等専門家会議 委員(2014年4月～2020年3月)

宮城大学事業構想学研究所修士、博士(事業構想学)

一般社団法人ロハス・ビジネス・アライアンス共同代表。一般財団法人日本水土総合研究所理事。おおさき宝大使(宮城県大崎市)。

早稲田大学ふくしま広野リサーチセンター招聘研究員。消費生活アドバイザー(経済産業大臣認定)。環境カウンセラー(環境大臣認定)

2021年4月から同志社大学総合政策科学研究科ソーシャルイノベーション担当教員として着任予定。

著書・論文等

著書『ロハスビジネス』(共著、2008年、朝日新書)、『アグリ・コミュニティビジネス』(単著、2011年、学芸出版社)、『新コモンズ論』(共著、中央大学出版会、2018年、)『SDGsとまちづくり』(共著、学文社、2019年)他

学位論文「SDGs時代における世界農業遺産の役割に関する研究」(2020年9月)

査読論文「SDGsの視点からみた国内の世界農業遺産認定地域の活性化」、大和田順子、農業農村工学会『水土の知』2019年、87(10)、pp.833-836

査読論文「P2Mフレームワークを適用した世界農業遺産による農村振興手法の提案 -宮城県大崎地域における自然共生型農業による地域ブランディングの考察-」大和田順子、風見正三『国際P2M学会誌』、2020年、14 巻 2 号、pp.163-183

査読論文「関係人口による地域価値共創プログラムと地方創生人材育成モデル-宮城県五ヶ瀬町「関係人口創出事業」を事例に-」大和田順子、風見正三『国際P2M学会誌』、2020年 15 巻 1 号、pp.164-182

査読論文「市民協働による地域復興共創システムに関する考察-「ふくしまオーガニックコットンプロジェクト」を事例に-」大和田順子、吉田恵美子、栗林敦子、『国際P2M学会誌』(2020年3月掲載予定)

○ 大崎耕土世界農業遺産地域におけるSDGsツーリズム開発

取組の内容

宮城県大崎地域では、2017年にFAO(国連食糧農業機関)の世界農業遺産(GIAHS)に「持続可能な水田農業を支える大崎耕土の伝統的水管理システム」で認定された。現在国内では11地域、東北では大崎地域が唯一の認定地域である。大崎市役所は世界農業遺産推進課を設け、認定後はアクションプランに着手し、独自の認証制度や企業との連携、次世代育成など地域振興に活用している。農業遺産を活かしたツーリズムに関しては、2018年からホームページや動画・パンフレット制作・看板設置(QRコード付き)等を行ってきた。

私は2014年～農林水産省の世界農業遺産専門家会議委員を務めていたため、認定後から同地域の支援を開始した。農業遺産活用マネジメントに関する調査・分析を行い、論文として公表した。特に2020年にはみやぎ大崎観光公社が実施した「大崎耕土世界農業遺産で学ぶSDGsツーリズム」事業の企画・実施を支援し、企業向け、個人向け(外国人含む)、大学生向けのプログラムを開発し、2021年度からの実施計画を立案したところである。

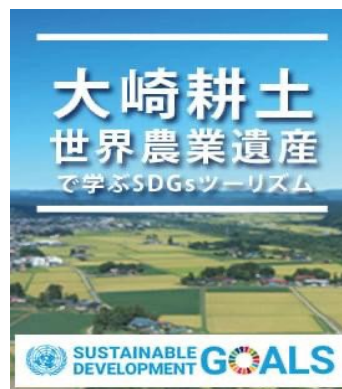


OSAKI KOUDO SDGs QUEST

大崎耕土SDGsクエスト



「大崎耕土SDGsクエスト」表紙



大崎耕土世界農業遺産で学ぶ
SDGsツーリズム

実績

アクションプラン(5年に1回見直し)ではGIAHSツーリズムに関して年間1万人の目標を掲げている。そこで、大崎地域世界農業遺産推進協議会では2018・19年度はICTを活用した関連情報の可視化に努めた。2020年には「大崎耕土世界農業遺産で学ぶSDGsツーリズム開発」に取組み、ターゲット別(企業、外国人含む個人、大学生向け)のプログラムを開発し、2021年度からの実施計画を立案した。

工夫した点や苦労した点

みやぎ大崎観光公社、大崎市産業経済部観光交流課、同世界農業遺産推進課、農家や事業者・NPO等の連携が欠かせないことから、2020年11月～観光庁の誘客多角化事業を活用し、関係者が連携して「大崎耕土世界農業遺産で学ぶSDGsツーリズム」プログラム開発に取り組んだ。withコロナ期対策として個人向け、企業向けのオンラインツアーを実施するとともに、大学生向けの学習プログラムおよびテキスト「大崎耕土SDGsクエスト」を開発した。

ひとつとPR

「大崎耕土SDGsクエスト」は、「問い」「対話」「探究」をキーワードにしており、参加者が大崎地域GIAHSでの学びを、自分の地元や自分の行動を振り返り、課題解決を志向する構成になっており、他の地域でも同様のプログラムをつくる汎用性があると考えます。

○ 参考

取組分野の分類

登録者の取組を12の政策分野に分類しています(複数の分野に該当するものもあります)。

1.地域資源を活用した地域経済循環	2.まちなか再生
地場産品発掘・販路開拓	中心市街地活性化
6次産業化	空地・空家・空きビル・空き店舗等対策
経営資源の引継(事業承継等)・起業支援	商店街活性化
地域中核企業等の支援	その他
○ その他 農業遺産観点からの地域資源のストーリー作り	
3.生活機能の維持	4.環境保全・SDGs
地域医療・福祉	分散型エネルギーシステム
地域交通	地球温暖化対策
集落機能の確保	廃棄物・リサイクル対策
その他	○ その他 SDGsを活かした農村振興、エシカルなどライフスタイル
5.防災減災・危機管理	6.観光振興・交流
建築物耐震化・長寿命化	○ DMOとの連携
地区防災計画	インバウンド対応
BCP	○ 民泊・農泊
避難所運営	地域おこし協力隊の推進
感染症対策	その他
その他	
7.関係人口の創出・拡大	8.移住・定住促進
○ 滞在・活動の場づくり	起業・事業承継等支援
地域おこし協力隊の推進	空地・空家対策
○ 地域と関係人口の協働	地域おこし協力隊の推進
その他	その他
9.少子化対策、子ども・子育て支援	10.地域づくり人材の育成・教育
結婚・出産・子育て支援	○ 人材研修
働き方改革	ふるさと教育
子どもの貧困対策	○ 地域と教育機関の連携(高校魅力化・域学連携等)
その他	その他
11.自治体経営イノベーション	12.シティプロモーション・地域PR
財政マネジメント(公共施設管理・公会計整備)	○ 地域ブランディング
官民連携(PPP・PFI)	メディア活用策
○ 自治体間連携	○ 効果の把握・評価
○ 住民参加	その他
その他	

関連ホームページ

現在作成中(4月から公開)	

連絡先

メールアドレス	owadajunko〔アットマーク〕jcom.home.ne.jp		
---------	-----------------------------------	--	--

※メールを送る際には〔アットマーク〕を『@』に変えてください。